炭界異變ではあるよ 何と朗かな

需要薄季に却て增送 前年同期（今月初旬）を凌ぐ七百車

近來とかく赤字を見せ勝ちの常磐炭山元の發送高は去月中旬に珍らしい增に反し下旬に於て再た候若干の減を示したので、夏季需要薄の時期に入る折柄でもあり爾後の推移を氣遣はれてゐたが去る一日以降十日迄の成績は營業用三、五五四車四一九二六廸　省用一、三七八車一七、二七三廸　合計四、九三二車五九、一九九廸で前年同期に比し增差（營業用）五一八車五四四九廸　省用一六〇車一、六六八廸　合計六七八車七、一一七廸で一寸夏分に不似合な動きを見せてゐるが、去月來の實績に徵し波狀で進む增減が常磐炭鑛最近の常態とすれば今中旬は幾分減少を示すかも知れぬと觀測さる

好機を逸してはと 町村長續々上京

中央の豫算編成ご地方

主務省に於ける豫算編成直前のチャンスを逸すまいと目下全國各地から俺が國さの産業開發を建前にした各種工事の實現陳情團が續々上京してゐる昨今躍進途上の小名濱町では昨報の如くきのふ小野町長以下の代表が商港擴張工事促進を提げて上京した外四倉町でも第二期漁港修築事業のため目下新妻町長の一行が出京中であると

尙ほ此外靑沼平町長も過般期成同盟會を組織して松井東北振興事務局長に陳情し更に此程內務省小澤技師一行の實地踏査等愈々有望に展開しつゝある勿來—久ノ濱間國道鋪裝と地下採掘問題等の關係から重視されてゐる新川改修工事の實現にも此の好機を逸すまいと別項の如く前記鋪裝の副會長たる石川湯本、木村大浦兩町村長と共に上京。新妻四倉町長と合流內務、大藏兩省を訪問、これが實現に一と肌拔ぐ事になり目下兩大臣宛の陳情書作製中である

平町代表上京　前記新川並に國道鋪裝の陳情で靑沼町長は石川湯本、木村大浦兩町村長並に野崎、井上、萩原三縣議、新川改修委員と共に十六日平發午前五時十五分で上京する

食料品市場 堂の前へ開設許可

平町三丁目高野正三氏外四名出願にかゝる同町堂の前へ創設の食料品市場は此程縣から期間十ヶ年で許可になつた

軍神の遺兒も參列 大越中佐慰靈祭

けふ盛大に擧行

軍神大越中佐慰靈祭は今十三日午前九時から縣社子鍬倉神社境內銅像前に於て執行、靑沼顯彰會長以下藤田聯合分會長、四家將校會長、藤井平分會長の祭文に次いで遺族（醫學博士大越貢氏、陸軍參謀本部付步兵大尉大越兼次氏、板垣少將夫人）役員來賓參列者の玉串奉奠終つて功勞者として

山崎淸三、內鄉靑年團石工加藤太十、吉田玉峯の諸氏に謝狀贈呈後靑沼會長から中佐顯彰會創設以來の事業經過と解散の挨拶あり盛大裡に終了、午後一時から內鄉村淺野記念館、同七時から聚樂館に於て戰死當時の副官であつた陸軍少將岡本忠雄氏並に中佐の遺兒參謀本部附大越大尉の中佐をしのぶ講演會を催した

川前鄉倉協議　川前村では今年度恩賜鄉倉として五ヶ所を建造する事になり今十三日區長會を開き種々協議した

市制調查 視察報告書（九）

警備衛生部委員

豐橋市でも尋常科生徒から授業料を取つてる、授業料は一ヶ月十五錢で、一萬七千百二人で二萬八千二百十八圓の豫算を計上してゐる。尋常科の生徒から授業料を取るのに比べて取らない方が好いのがきまつた事だが、吾々東北より文化の程度の高いと云はれてゐる東海道筋では、平塚でも沼津でも豐橋でも尋常科の生徒から授業料を取つてるのは何たる事であらう

昔ギリシャの文化華やかなりし頃、夜會場の隣りに大理石で造つた吐場があつた、紳士淑女が腹一杯食べると一同吐場へ行つて食べたものを吐いて再び鶯の舌だの、山海の珍味をあさつた相だが、文化の程度の高くなるのも考へ物だと思はれた

豐橋驛發午後四時三十四分、京都驛着午後十時七分大野屋旅館に投宿した

◎第三日（金）晴

十日午前京都市內を見學した。古き都ながら裝ひはモダンである、名所舊蹟も化粧を凝らして遊樂の人々を招いで居る。衆生濟度の爲めに起たれた筈の法然親鸞などの開祖達は佛壇のかげで地上の騷音を何と聽かれるであらうか

比叡山を越ゑて大津市に下つた。午後三時頃市役所を訪問した。水道課長三浦喜藏氏は平の堀井工業の江口社長の緣の兄弟とかで、あれやこれやと平の話が出た、沼津の社會課長さん、豐橋の下水道築造事務所長さん、大津の水道課長さん等と全國何處の市役所に行つても平町との緣故者が居るのではあるまいかと思はれた

汚物掃除

塵芥燒却場は二つあつて一つは松本燒却場で他の一つは膳所燒却場である。松本燒却場は昭和八年一月十五日に起工して、同年三月三十一日に竣工したもので建設費總計三萬一千百六圓七十七錢である。一日の燒却能力は四千貫である。膳所燒却場は昭和六年八月二十一日に起工して同年十月五日に竣工したもので、建築費總計一萬八千百三十圓二十一錢である。一日の燒却能力は二千貫である。共に市營でやつてる（參考書類第十九號及び第二十號參照）

火葬場

火葬場は市立と私立と二ケ所あつて、市立は燃料に重油を使用してゐる。二時間位で燒ける

火葬場に接して齋場があるが餘り利用者がない。齋場一回の使用料は二圓である

火葬爐の使用料は

十二才以上一體—特等十圓、上等七圓　並等二、五圓　四才以上十二才未滿一體—特等七圓、上等五圓、並等二圓　四才未滿死體兒一體—特等五圓、上等三圓、並等一圓

平靑年學校 十六日開校式

靑年訓練所を改稱創設した平靑年學校では愈々來る十六日午後七時より平第一校內同校に關係者、町議、區長等を招き開校式を行ふ、なほ改稱開校に當つての募集に應じた新入生は六十餘名合計百八十名であると

ガソリンカー停留十ヶ所申請 明春頃開始の曙光見ゆ

平町を基準とするガソリンカーは愈々明春三月頃から開通の曙光が見えたので此程の町村長支會總會終了後も停留場設置其他に關し種々協議した結果さきに主務省に提出の平、久ノ濱、小川鄉、湯本間八ヶ所の外錦村中田原人絹會社附近並に湯本—泉間磐崎村岩ヶ岡地內の二ヶ所を加へ合計十ヶ所の設置を計る事になり近く關係町村長連署の上主務省に請願する事になつたと

就勞者拂底 雇傭側悲鳴を擧ぐ

平町二丁目常磐銀行脇通り鋪裝工事の前提たる側溝工事は昨十二日から愈々本格的工事に入つたが所要人夫約五十名にも拘らず既に登錄人夫が何れも他工事に向いてゐる關係から出役僅か四五名に過ぎぬ手不足に當局は目下附近各村に通知を出すなど少からずあせつてゐる

磐東銀行株主總會 來廿四日開催

配當率二割四分

磐東銀行第七十九回定時株主總會は來る廿四日開催するが今期成績次の如く昨十二日の重役會に於て配當率を前期同樣年二分四厘に內定した

準備金及利益配當案

一金二千八百六十八圓二錢當期純益金、一金三千五十八圓十四錢前期繰越金、一金五千九百二十六圓十六錢合計當期利益金之を處分すること左の如し

一金三百圓也法定準備金

一金二百圓退職給與基金

一金一千七百七十圓也年二分四厘の割（舊株一株に付金六十錢、新株一株に付金十五錢）株主配當金、一金三千六百五十六圓十六錢後期繰越金の豫定であるが一般の出席を希望すると

繭は之方へ＝輸送の お株を奪ふトラック

鐵道側對策に焦慮

輓近增加の一途を辿つてゐる郡內の貨物自動車はその積み下しの輕便と比較的安價な輸送料とから今春繭の出廻り季に於ても縱橫無盡の活躍を見せともすれば鐵道輸送の領域を蠶食してゐるので鐵道では每年繭市開場と共に各地の市場へ『迅速モットー』其他のポスターを揭げこれが吸引策に努めてゐるが平驛に於ける今春繭の如き去月中は皆無、今月に入つて豐橋へ僅か一車（七噸）を送つたきりと云ふさびしさに鑑み今後の夏秋繭には極力その奪還を期す方針であると

春繭二割減 郡下の豫想調査

縣の統計課調査にかゝる去月末現在郡下春蠶豫想收繭高は

（白）六三、一二二貫（黃）一二、七四二貫　合計七五、八六四貫

で昨年同季に比し二〇、三三五貫（二割一分一厘强）の減量であると、右は掃立數量の減少した結果で飼育山間に於ける天候は概ね適順を保ち蠶兒の成育良好にして一時一部地方に桑不足の聲を聞かれたが需給上に何ら支障を見なかつた

津島神社祭典　平町五丁目鎭座津島神社祭典は明十四日執行、餘興として水戶の一行十餘名を招き萬歲、漫談、落語等あり賑ひを豫想されてゐる

大怪我の運轉手 手當効無く絕命

購入した魔のオートバイ

昨報—新オートバイの車體檢査歸りに小野新町附近の險所七曲りで運轉を誤り傍の水田に墜落瀕死の重傷を負つた江名町字北町自轉車業久保田武之助（三六）は平町踏橋病院で應急手當ての甲斐なく昨十二日午後五時頃遂に絕命した

恩給年額五萬圓

一昨十一日平局から 四分の一が流れ出す

一昨十一日平局で拂ひ出した各種年金恩給額は百十三件一萬千八百八十二圓であるが右は年四回に分割拂ひ出さるゝもので之れが年額は單に石城の一小局部丈けで尙ほ實に約五萬に近い巨額に上り、一部に行はるゝ所謂恩給何とやらの巷說も亦故無きに非ずと頷かるゝものがある

立憲養正會懇親會

立憲養正會石城聯合支部では總裁田中澤二氏竝に本部總務田中耕氏、本部幹事長加藤喜孝氏等の當地訪問を機として明十四日午後六時より湯本町松柏館に於て大歡迎懇親會を開催

平町選肅委員內申　平町では選擧肅正委員として此程六十名を縣に內申した

村田書記著任　平區裁判所書記豫審小川太一郞氏の後任として白河區より今十三日村田二良氏が着任した

失火に廿圓　勿來町四澤字古身一〇農小野富治內妻吉田アサ（四六）は去月三日朝炊事の殘火不始末から便所及び母屋を全燒し此程平區より略式罰金二十圓

出稼人慰問 紹介所で 各方面へ激勵手紙

平職業紹介所では去る一月來就職資金を借り受け何れも雄々しく職業戰線に活躍してゐる草野村出身鈴木トリ（神奈川縣鎌倉郡瀨谷村守屋製糸工場勤務）外十九名の小娘達がともすればその境遇に沈みがちな關係から今十三日激勵の書狀を送つた、尙同所で去る一月以降貸付けた就職資金は百五十圓を最高に合計千餘圓（十九名）に上つて居り今後もその事情によつて貸付ける筈である

求刑より輕く けふ毆り込み判決

七年が五年、五年が三年に

植田町本町山田屋毆り込み事件判決公判は今十三日午前十時半から平支部廷で中島裁判長係り、小林、香西判事陪席、白水檢事關與、額賀水戶、大嶺平（小吹）、安齊平（山川、鈴木、富岡）各辯護士立會開廷、左の如き判決を言渡された

（括弧內は求刑）

懲役五年（七年）上遠野村流字上游居住勿來町酒井字堀の內生れ土工荒川事小吹又一郞（四六）、同（同）錦村中田昭和人絹會社工場富岡飯場內埼玉縣入間郡飯能町生れ土工山川倉藏（三〇）、同三年（五年）同山口縣厚狹郡小野田町生れ土工敏行事鈴木末松（三二）、同二年（二年）同東京市王子區王子町生れ富岡乙三（三八）

盜みが殆ご副業

情を明かして捨て賣り 內鄉の鼠賊新顏數名檢擧

平署では內鄉村地帶に巢喰ふ石炭、鐵類泥檢擧は依然その手をゆるめず今十三日更に同村大字宮字平太郞磐炭臨時夫森合林藏（四三）外數名を檢擧した

森合は昨年九月來磐炭住吉坑より十數回に亘り鉛其他鐵類約百貫を竊取これを同村古物商菅野喜藏（三三）に棄て賣りしてゐたもので此の他の連累者も副業同樣に同鑛より鐵材石炭等を竊取、情を明かし古物商に賣りとばしてボロイ儲けを占めてゐたもので今後もドシ〳〵此種コソ泥の一掃を圖る方針であると

轉居　柏木哲　平町字堂の前　一一

木戶の放火 犯行を否認

取調べ官喚問か

双葉郡木戶村山田濱字後中大工職松本好次郞（四五）に係る放火事件は今十三日午前十一時より中島裁判長係り小林香西兩判事陪席、濱田檢事關與、市井辯護士立會開廷したが、檢事から被告が終始犯行を否認し當時取調べに當つた富岡署森巡査部長の强壓によつて嘘僞の供述をなしたと言ふ所から右巡査部長の召喚訊問を申請したので判官一同別室に右を採擇すべきや否やを協議した

景氣の橫顏

物價　平町役場調査の去月末現在の主なる物價左の如し

白米一石—上二八圓八十錢、中二七圓八〇錢、下二七圓、淸酒—一七圓五〇錢、醬油—三五圓、味噌—一貫目五〇錢、牛肉—百斤五六圓、雞卵—百個三圓、白砂糖—百斤二一圓一錢、赤砂糖—一六圓一八錢、石油—一箱四圓六〇錢、石炭—一噸一二圓

竹谷薰氏榮轉　平土木監督助手竹谷薰氏は此程縣土木課電氣係に榮轉兩三日中に赴任する

土木關係野球　平土木監督所對夏井川改修事務所員の野球戰は十三日午後三時から飯野小學校庭に開いた

傳貧馬檢診　石城產馬畜產組合では來る十六日より二十九日迄今井技手により川前、入遠野、田人、荷路夫、貝泊、石住各村の傳貧馬檢診執行

勞銀　平町役場最近の調査にかゝる去月末現在の各種勞銀の主なるものは左の如く去る三月末現在調査に比し昂騰したものは田植ゑ季關係の農作の外大工、左官、煉瓦製造職、桶職等の何れも二十錢高である

農作—男九〇錢　女六〇
塗師—六〇　染物職—六〇
洋服仕立職—九〇
木挽—一、五〇　大工—一、五〇　左官—一、五〇
指物職—一、二〇
建具職—一、二〇　石工—一、五〇　下駄職—六〇
鑄物—一、八〇　桶職—一、〇〇　杜氏—月給三五、〇〇
日雇人夫—八〇
下男—月一九、〇〇
下女—同八、〇〇

只飮　好間村上好間古河炭鑛坑夫志村啓一郞（三七）は去る五月十七日双葉郡富岡町大字小濱料理業押田百四郞方で十二圓餘の飮食をし今日尙ほ代金を支拂はぬので百四郞から今十三日說諭方を願ひ出た

妻子と家財消える　平町材木町三浦今朝吉（三七）の妻ウメ（三四）は去る十日夫が仙臺方面に旅行中長女正子（三）と家財道具を持つた儘何れかへ行方を晦ましたが同町宮島某（年齡二十四才）に何れかへ誘惑された形跡あると今十三日今朝吉から平署に搜索方を願ひ出た

七月の傑作盤
無情の夢
船頭可愛や
平盆踊
其外流行歌、浪花節色々あります
金光堂時計店　電話一九五

友部は皆々様の株式店です。
株式ハ一株ヨリ
債券ハ一枚ヨリ
御下命を願ひます
株式公債現物賣買　友部株式店　平・三丁目　電話一七七